

ほとけの 混和会だより

令和二年六月
東光院
仏の混和会
第147号



己とコロナ修行

新型コロナウイルスの緊急事態宣言、漸く解除されました。しかし完全に終息したわけでは有りませんが、今後とも注意を怠らないよう努めて参りたいと存じます。

さて、この度の新型コロナウイルスの発生は、自然発生とか人為的発生、若しくは過失、などと様々な情報が飛び交いました。

人々はその様々な情報に不安をおおられ、更にこの非常事態に便乗してマスクを高額で販売する業者、又そのマスクを販売する店頭に並ぶ長

い行列などと世間の思惑に翻弄される毎日でした。しかし世間の出来事を否定的に歩んだら不平不満、非難中傷と言う愚痴と成り、迷いと苦しみを招く要因と成るだけで何も得る事は出来ません。

ブツダは悟りに至る段階に「縁覚」と言う境涯があることを示されました。

これは己にとって好ましくない出来事や都合な出会いで合っても否定的に受け止めるのでは無く肯定的に受け止めて、その経験が良き縁と成り悟りに導かれるよう己の思いを改めるものです。

そこで、この度の自肅要請を肯定的に受け止めるためにどの様な心構えで歩んでら良いのか色々思案しておりましたら、十数年前に目にかかった二十代の女性の言葉思い出したので紹介します。

「人は不自由さや苦しみの経験が無いと人の痛みの解る心豊かな人にはなれない、今の日本ではそのような経験が出来ないので私はベトナムに行きます。」と言う言葉で由さを求め、大きな心が得られるよう己の修行として

ベトナムへ行かれたのでした。現在の私達の社会は便利さが当たり前に成っております。しかし何か尊いものを見失って居るようなも思われます。

この度の自肅要請と言う不自由な生活を肯定的に受け止めるこの経験が良き縁と成るよう心よりお祈り申し上げます。

仏様は全てを抱擁して下さいます。



この度の自肅要請によって止むなくご供養して上げられなかったご親族の皆様は於かれましては何かと気掛かりな事と存じます。しかし仏様は高い次元から私達を見守って下さいます。

回忌法要のご供養をして上げられなくて申し訳ありません。と言う素直な御心の元に懺悔の念を抱き、常日頃から清らかな感謝の念を捧げる事によって、ご先祖様も皆様の御心を十分に理解して下さい温かく受け止めて下さいます。

どうぞご安心下さい。

自然と共に生きる



エメラルド色のベネチア

この度の世界の自肅要請は、地球環境には大変良い効果をもたらしそうです。

イギリスの環境ニュースメディア Carbon Brief が発表したデータによると、温室効果ガスの排出量は前年度より十六億トン減少の見込みと報じられました。更にイタリアでは観光客がゼロに成った事でゴミの排出量は激減、そして水の都ベネチアの運河が鮮やかなエメラルド色を取り戻し、空は青々と澄み渡っていたとの事でした。



サツマイモ苗の移植

なんと皮肉な事に私達の欲望が押さえられれば、地球環境は劇的に改善されて温室効果ガスの排出も地球温暖化も大きくブレーキがかけられるようです。

そこで少ない欲望の元に大きな希望が見いだせるように更に自然と共に生きる、よりどころと成るよう、十月にサツマイモの収穫祭を計画致しました。後日改めてご案内致します。



日本仏教に登場する仏様を毎号少しずつご紹介。今回は番外編とし、慈恵大師良源を紹介します。

● 慈恵大師良源

(元三大師・角大師)

この方は平安時代の天台宗の僧侶で日本初の「おみくじ」の創設者と言われており、正月三日に亡くなられた事から、別名元三大師と呼ばれております。そんな良源の活躍を一つ紹介します。

平安時代中期の話、未知の疫病が蔓延し人々は苦しみ、良源自身も疫病に感染し高熱に苦しみました。

疫病の苦しさを体験した良源は疫病から人々を救うため、弟子に鏡を用意させ、その前で修行に入られました。

すると、鏡に映る良源の姿はみるみる変化し、角の生えた骨と皮ばかりの恐ろしい鬼(降魔)の姿を映し出しま

した。鬼となった良源の姿を恐る恐る弟子が写生すると、良源は

「これを御札として人々に配り、戸口に貼り付けるように伝えなさい。疫病神は恐れてその家に入ってくることが無いだろう。」と命じました。

以後、御札を貼った家では病人は出なくなり、鬼の姿の良源を角大師と呼び厄除けの大師と信仰されました。

今尚、世界中で病に苦しんで居られる方が大勢居られます。事の早期収束を願い、厄払いの念も込め、慈恵大師良源をご紹介させて頂きました。

末筆では御座いますが、今回の新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、罹患された方々に心からお見舞い申し上げます。

また、対応に当たられて多くの医療従事者をはじめとした多くの皆様にかから感謝申し上げます。

(←比叡山横河の角大師札) 亮澄拝



比叡山横河

日常のありがたさを実感



昨今のウイルス情勢に伴い厳しい日々が続いております。亡くなられた方々にお悔やみ申し上げると共に、一刻も早い収束を日々願うばかりです。

深大寺では春を迎え増え続ける観光客に自粛を促すためにも山門を閉じることとなりましたが、結果的に私自身も約一月半、印西での待機となってしまいました。

寺院の諸行事はことごとく中止となり、深大寺の元三大師特別開帳も東光院の花まつりも、延暦寺での雅楽法要も準備してきたものが全て取りやめとなりました。

しかし緊急事態宣言を受け、社会全体の事を考えればこれは仕方のないことなのかもしれません。

四月八日はお釈迦様の誕生日

今年の花まつりは中止となってしまいました。例年通り花見堂を本堂に設け、近所からお参りにいらした方などが誕生仏に甘茶をかけてお釈迦様のご誕生をお祝い



されていました。例年多くのご家族、体験教室の先生方にお手伝い頂き賑わっておりましたが残念です。来年何事もなく開催できることを楽しみにしております。

夏の香りがしてきました



今年の春は外出自粛の影響もあり、気持ちの良い季節も十分に実感することなく過ぎ去ってしまった気が致します。



東光院では、畑に行く、さやエンドウや空豆が実りはじめるなど、野菜の栽培を通じて季節の移ろいを感じることができ

ました。人間社会の苦しみも自然界には関係なく、夏はもうすぐそこまで来ておりました。亮敬拝